

6. 評価手法策定を進める上での今後の提案

2015年度、2016年度の2ヶ年にわたり、石西礁湖自然再生に係る過年度事業データの整理、可視化、解析を行い、事業評価手法検討の資料を作成した。自然再生全体構想の短期目標達成期間10年にあたる2017年度以降、検討資料に基づき評価手法策定（指標及び数値目標）及び評価に取り掛かるが、そのための課題を整理し、今後の展開について提案を行った。

6.1 課題

(1) サンゴ礁修復事業データの解析

サンゴ礁修復事業に係るデータについては、「平成27年度石西礁湖自然再生事業評価手法検討業務」において一部のデータが整理されたが、解析については未着手のため、2017年度に実施する必要がある。

(2) 環境省以外の各委員実施事業データの解析

全体構想では、「多様な主体の参加による連携・協働」を原則とし、取組を進めていくこととしており、自然再生協議会委員の役割分担が示されている。これらの分担事業の解析については、平成27年度業務、本業務においては未着手であるため、2017年度に実施する必要がある。

6.2 提案

(1) サンゴ礁修復事業データの解析

サンゴ礁修復事業については、2004年度から種苗生産が開始され、2005年度から種苗移植が行われてきた。各年度においては、経年変化の報告を行ってきたが、詳細なデータの解析は行っていない。特に、移植成果として最も重要な移植ユニットの被度変化については、未着手である。精密な被度測定は鉛直撮影写真から行うが、移植時に撮影が行われているため、それらのデータを使用し、行うことが可能である。また、移植種苗の成長・生残と移植場所の環境についての詳細な解析も行う必要がある。

(2) 環境省以外の各委員実施事業データの解析

環境省以外の各委員の事業は多岐にわたるため、第一段階では調査票によるデータ収集を行い、データ整理後、必要なヒアリングを行う。その結果を可視化し、解析を行う。